

**長岡京市の環境づくりのための団体アンケート
結果報告**

平成24年1月

長 岡 京 市

目次

1 調査概要	1
(1)調査の目的	1
(2)調査の対象	1
(3)調査の方法	1
(4)回収の状況	1
2 調査結果	2
問1 団体属性	2
問2 活動を継続していく上での問題	5
問3 他団体との連携	7
問4 情報発信	9
問5 今後の活動意向	10
問6 活動を行っていく上で行政に求めること	12
問7 西山を活かした環境活動、地域資源等を活かした環境学習活動への関わり	15
問8 自由記述	17
問9 ヒアリング実施確認	19
3 調査票	20

1 調査概要

(1) 調査の目的

この調査は、「長岡京市環境基本計画」の改定に向けた基礎資料として、長岡京市の環境づくりに係る団体からの意見を把握する目的で実施した。

(2) 調査の対象

- ・長岡京市を活動拠点とし、環境に関する活動を行う 30 団体

(3) 調査の方法

記名方式として、平成23年12月1日（木）～平成23年12月16日（金）を調査期間として、郵送により実施した。

(4) 回収の状況

回収数24団体、回答率80.0%

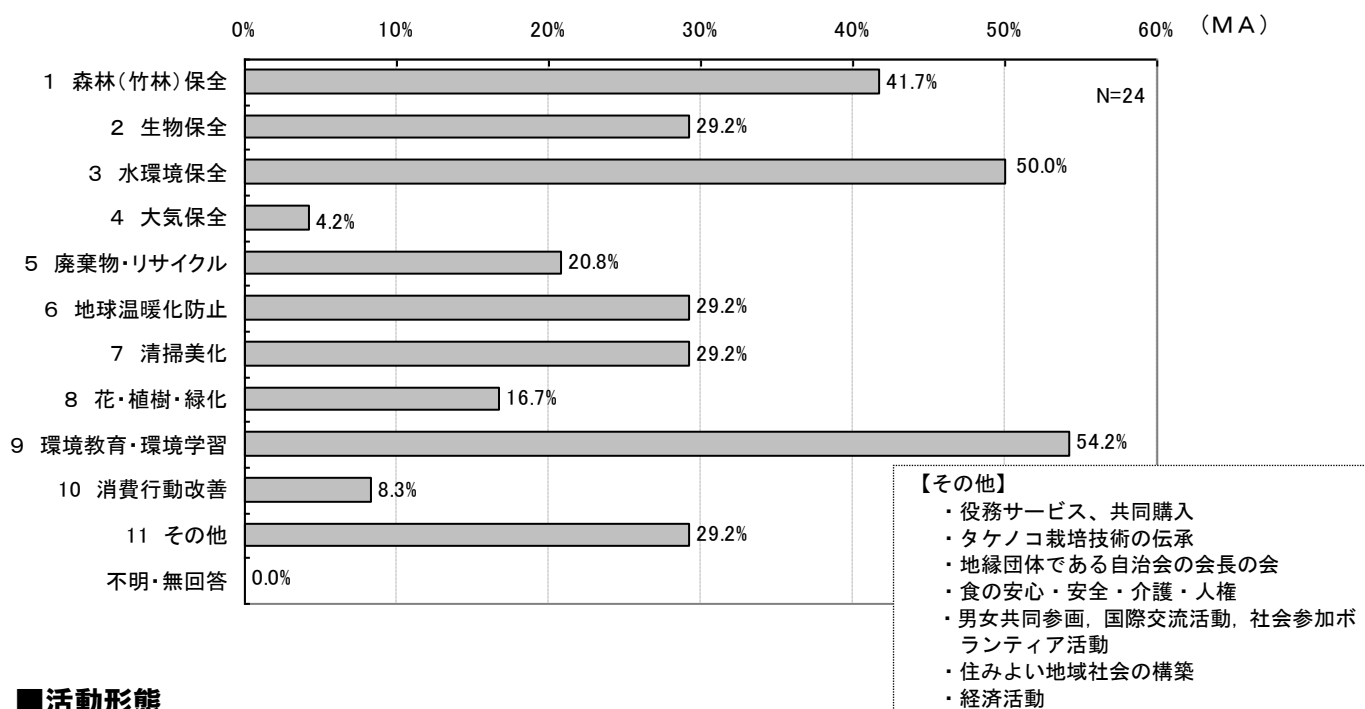
調査結果の表記について：百分率については、調査の有効回答数（N）、あるいは当該設問の回答数（n）を基数として算出している。小数点第2 位以下を四捨五入しているため、それぞれの数字の合計が必ずしも100.0%にならない。また、グラフまたは表内に示した記号のうち、SA は単数回答、MA は複数回答を示す。

2 調査結果

問1 貴団体名、所属人数、活動概要等についておたずねします。具体的内容をご記入ください。活動分野、活動形態等については、あてはまるものすべてに○印をつけてください。

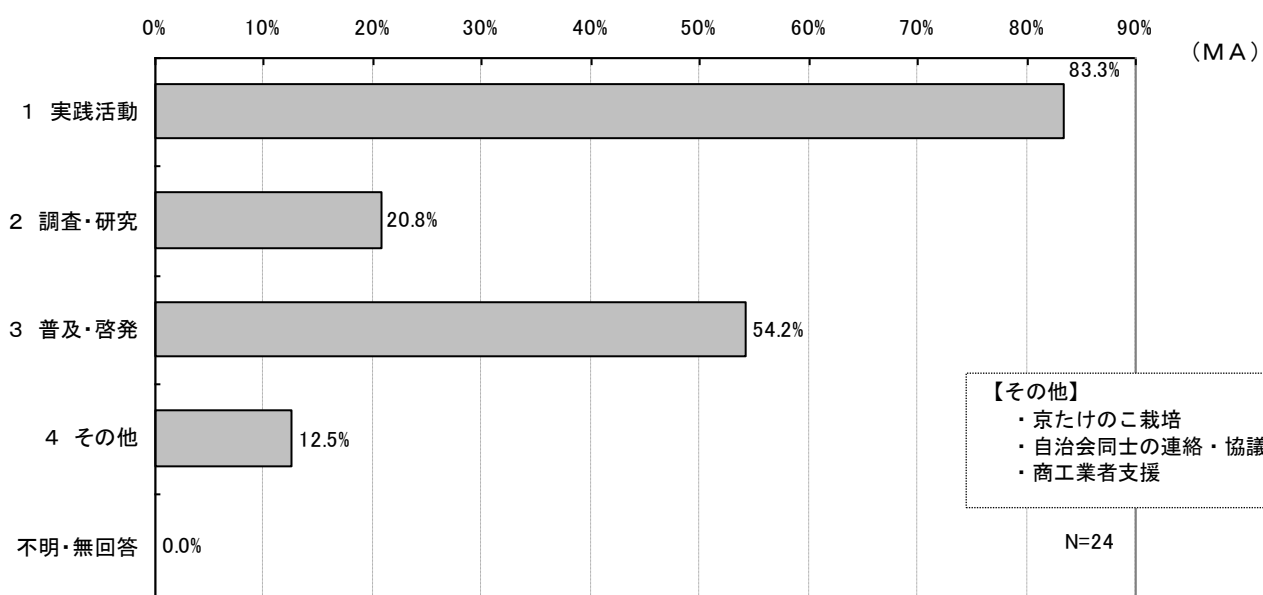
「環境教育・環境学習」が54.2%と最も大きく、次いで「水環境保全」50.0%、「森林（竹林）保全」が41.7%となっている。

■活動分野



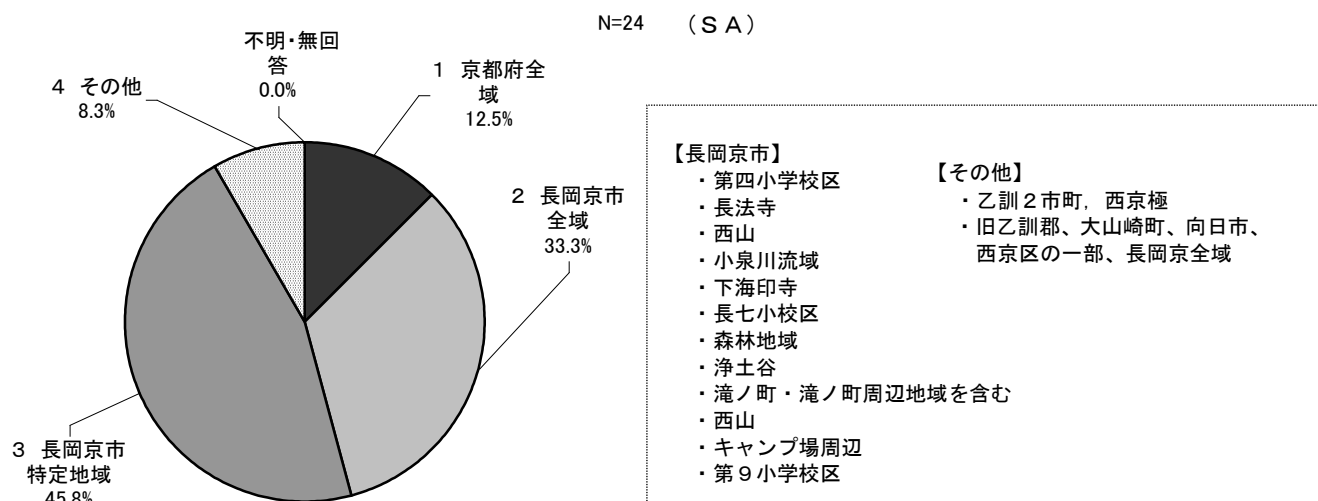
■活動形態

「実践活動」が83.3%と最も大きく、「普及・啓発」が54.2%となっている。



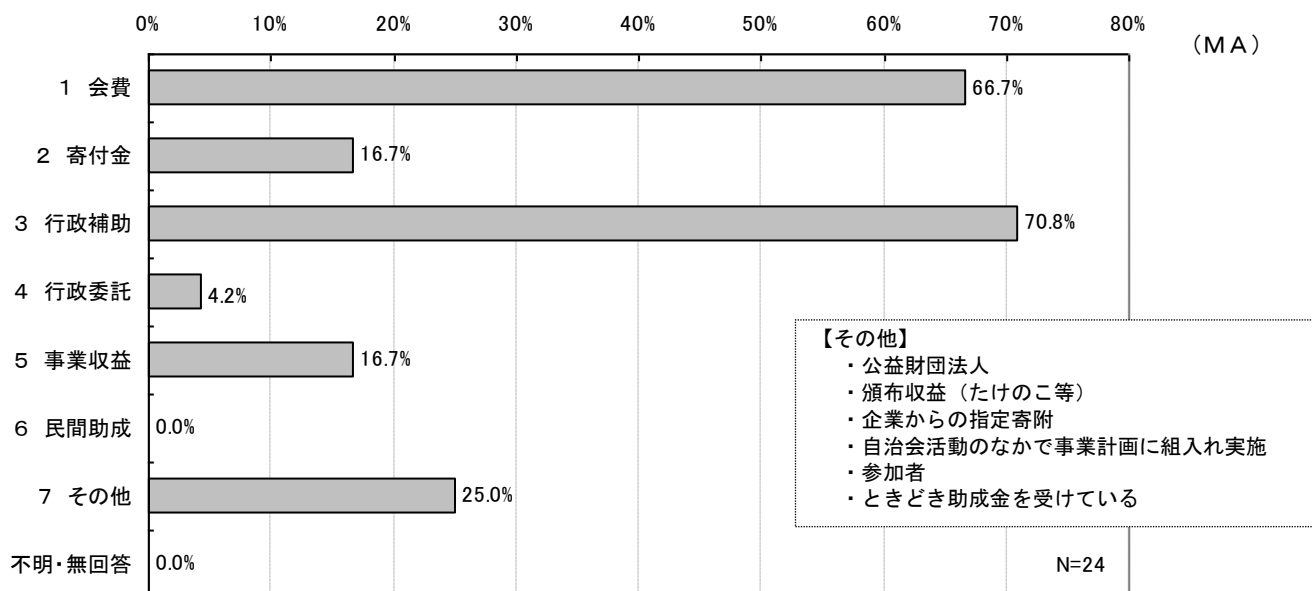
■活動エリア

「長岡京市特定地域」が半数近くで 45.8%となっており、「長岡京市全域」が 33.3%となっている。「京都府全域」は 12.5%となっている。



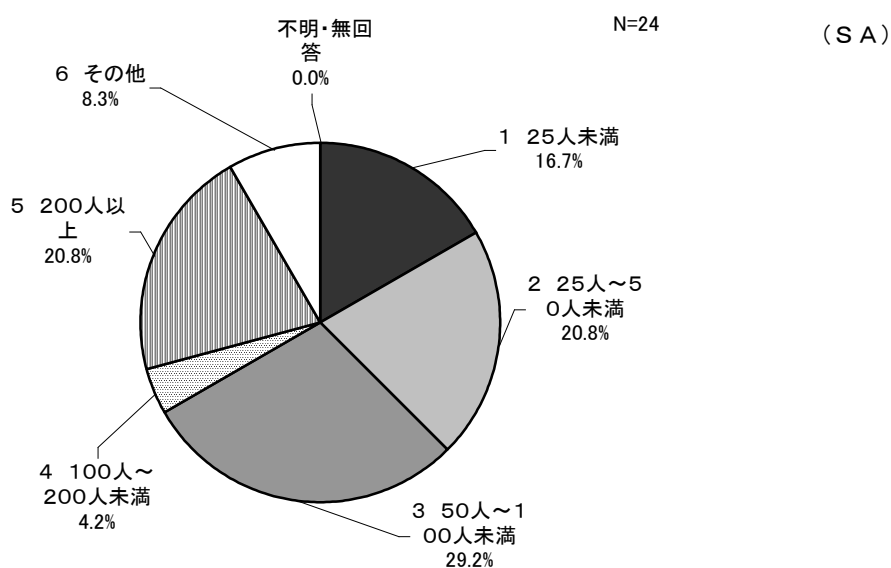
■活動資金

「行政補助」が 70.8%、「会費」が 66.7%となっており、これら 2 つが主な活動資金源となっている。「事業収益」は 16.7%にとどまっている。



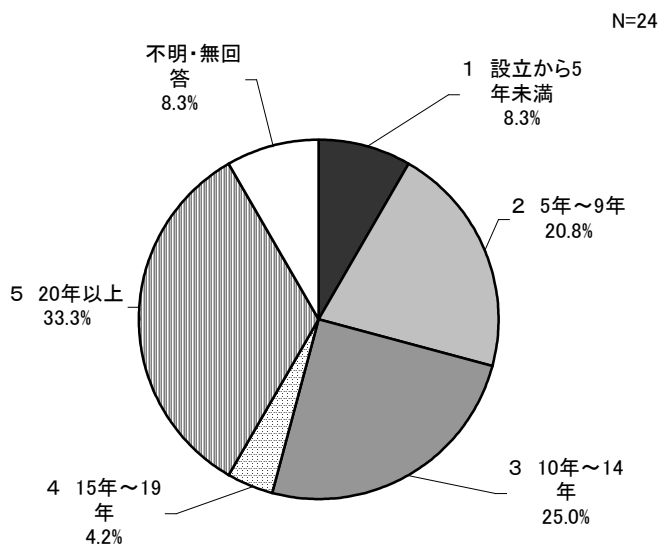
■会員数

「50人～100人未満」が29.2%と最も大きく、次いで「25人～50人未満」が20.8%、「25人未満」が16.7%となっており、6割以上が100人未満の組織となっている。



■設立年

「20年以上」が33.3%と最も大きく、次いで「10年～14年」が25.0%、「5年～9年」が20.8%となっている。



問2 貴団体では、現在、環境に関する活動を行う上でどのようなことが問題となっていますか。また、今後、活動を継続していく上でどのようなことが問題になると思われますか。具体的な内容をご記入ください。

■現在の活動の上での課題

担い手に関する課題が12件となっており、「高齢化」、「メンバーの確保」、「事業を進めたいが手が足りない」、「女性の参画が少ない」、といった課題が挙げられている。

また、森林保全・自然環境の保全に関する課題が4件となっており、「森林の適正な管理」や「生態系の保全」等に関する課題が挙げられている。

さらにごみ処理や発信力・認知度、資金面、会員同士の意見調整に関する課題等が目立っている。

【担い手に関する課題】 ・会員の高齢化している点と、活動する人がかたよっている。 ・高齢化で活動する人が少なくなっている。活動する人が集まらない。 ・要員の高齢化、絶対数の不足、取り纏め役、世話役の不足 ・ボランティアの高齢化及び後継者不足 ・若い世代の活動家が少ない ・メンバーの年齢層が高いのが課題です ・活動の中心となっているのは、高齢の役員であり、成年の人材をいかに参加できるようにするかが課題である。 ・継続した会員の確保 ・継続スタッフの確保 ・開発や森林伐採の前に自然調査をおこないたいが、追いつかない。 ・事業が多くなるとどうしても環境に手が回らなくなる。 ・新規会員、特に女性の参画が少ない。	【森林保全・自然環境保全】 ・伐採木の利活用や病害虫の予防対策などを含めた総合的な里山林の整備。 ・現在活動している池の尾地区でナラ枯れが多発している。散策道沿いのものは伐採しているがこのため計画した活動が遅れ気味になっている。 ・第二外環状道路工事の影響により、地域の環境が大きく変化しており、生態系にも影響を及ぼしている。 ・昔の農業や薪炭林に依存してきた生き物（水辺と雑木林の生き物）の環境が最も危機的である。社会的にその対策が進まないもとは、当会の対策も進まない。
【ゴミ処理、廃材処理】 ・ゴミ処理。 ・回収したゴミの処分を活動団体で行うことは不可能であるので、行政にお願いしたい。 ・竹林整備（5ヶ所）竹の引取り（3ヶ所）を手がけて来ているが、今年更に3～4ヶ所から、竹を切って欲しい、竹を引きとって処分して欲しいとの依頼がはいった。手入れしていた方がなくなったとか、高齢で出来なくなったとかが理由だが、依頼を受け切れない状況になっている。	【発信力・認知度】 ・環境に関しての活動では大きな事業がないので、場所とか資金には問題はないが発信力に欠ける。 ・活動内容を理解してもらう為の伝達方法。 ・認知度が低い。
【資金】 ・経済的な支援（現在、全て会員負担）。 ・活動資金の確保。	【その他】 ○専門知識 ・地下水が目に見えにくいものであるだけに、専門的な知識が必要ですが、なかなかそういう方々とのお付き合いがない。本気で地下水のことを把握しようとすれば、お金をかけた調査が必要。 ○啓発 ・小畑川クリーン作戦ではより多くの人が参加し、河川を美しくすれば良いが、ゴミをしない運動も必要である。河川を美しくする意味を啓発する必要があるが環境まちづくり部では、小畑川の水中の生き物調査や野鳥観察に取り組み、環境についても啓発している。 ○取組効果の検証 ・グリーンカーテンの取り組みでは、地球温暖化防止としても取り組んでいるが、どの程度効果があったのかどのように評価するのが課題である。 ○その他 ・各自治会では個々に課題を抱えている。例：ごみの分別指導に自治会から人を出しているが、ごみのステーションにごみを捨てに来るのは非自治会員を含むので、マナー違反などの際に指導できないなどの問題がある。 ・ケガ、事故時の対応。 ・コミュニティを目的とする上部組織の国、府の地方組織という特殊性もあり環境に限定した活動ができない。 ○なし(2件)
【会員同士の意見調整】 ・会員の中での意識の開きや、業種により環境に対する働きかけの強弱がある。 ・雑木林の手入れの方針を立てるときに意見が別れる。	

■今後、活動を継続していく上での課題

担い手に関する課題が 17 件となっており、「高齢化」、「メンバーの確保」についての他に、「若い人材の加入」、「人材の育成」等の課題が挙げられている。加えて、若い人材の活躍の場をつくる点についても挙げられている。

また、横のつながりや資金面、活動に対する意識づくりについても複数の団体から挙げられている。

【担い手に関する課題】

- ・人材不足。
- ・会員の確保。
- ・継続スタッフの確保と育成。
- ・地域コミュニティ連絡協議会の活動は、地域コーディネーターが配置されているから、活動を推進できているが、活動を担う人が限られている。どう担い手を増やしていくかが、今後の大きな課題である。環境の活動について言えば、行政やNPO等の支援を受け、気軽にだれが世話役になっても継続してやっていける体制づくりをしなくてはならない。
- ・会員の高齢化（平均年齢70才（75才以上5名））。
- ・若手会員の入会。
- ・会員も環境には関心はあるが、特に熱心に取り組もうという程の意識の高い人が少ない事が悩み。人材不足と高齢化も加わり若い会員の入会を期待したい。
- ・活動の中心となっているのは高齢の役員であり、成年の人材をいかに参加できるようにするかが課題である。
- ・若い後継者が育っていない。
- ・会員の高齢化が進行しており、継続的に活動を行うためには、若年層が活躍できる場の提供が必要。
- ・構成メンバーは高齢者が多く次の世代へのバトンタッチが上手く出来るのか不安がある。
- ・会員の若返りを図る必要がある。今後定年をむかえる人、若い独身の人たちが入って長く活動して行くように考える必要がある。子供たちには自慢できるだけのことを理解してもらえ教育もしたらいいかですか。
- ・管理運営上のリーダー。
- ・責任者の養成。
- ・女性参加の促進。
- ・多様な主体による活動を展開するための、ボランティアの育成。
- ・若年層、女性等、幅広い市民等の参画が必要。

【横のつながり】

- ・持続可能にしていく上で考えると、高齢者であっても若い人の集まりとまじわるような事業をしていく（子育て支援、木育、食育 etc）と活性していくと思うので、他団体との結びつき接点へのアドバイスがいただければと考えます。
- ・目的を同じくする他団体との合併化。

【資金】

- ・上記の現在の問題（課題）に加えて活動資金の確保。
- ・活動資金の確保。

【意識づくり】

- ・会員の中での環境に対する意識の開きがネックとなっているが、今日までの活動を基に、今後においても地道な活動を続けたい。
- ・モチベーションづくり。

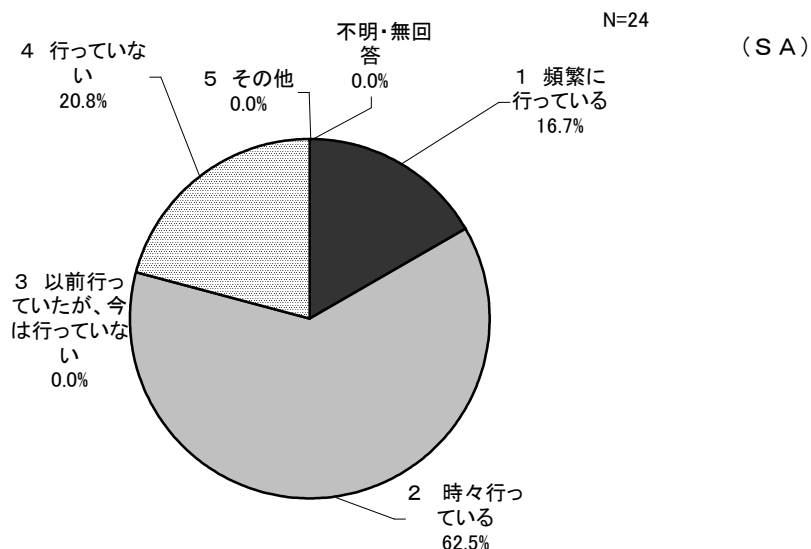
【その他】

- ゴミ処理・廃材処理
 - ・（竹の引き取り・処分を受けきれない状況）状況が更に進み、ますます放置竹林が増えると思われる。
- 認知度
 - ・認知度の向上。
- 企業の参画
 - ・新規企業への参画働きかけ。
- 基盤整備
 - ・トイレの設備（男女）。
- 森林整備
 - ・継続的な森林整備を行うための西山独自のシステムの確立。
- その他
 - ・上記のように、自治会として環境関連事業を行っても、その恩恵を受けるのは非自治会員を含む問題（手間を担うのはいつも自治会員、というような不満から自治会離れにつながるなど）。
 - ・取組み課題の抽出。
- なし(1件)

問3 貴団体では、他の活動団体等(民間団体、企業等)と連携した活動を行っていますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○印をつけてください。

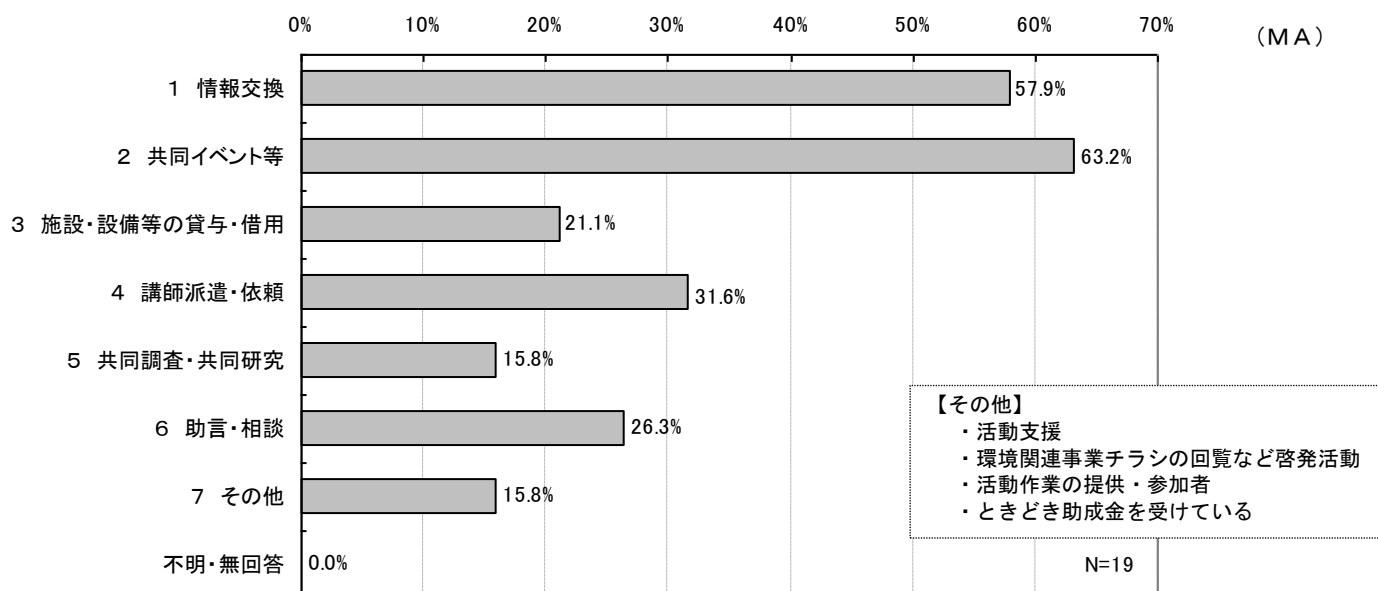
■連携活動状況

「時々行っている」が62.5%と最も大きく、「頻繁に行っている」が16.7%となっており、行っている団体が8割近くとなっている。



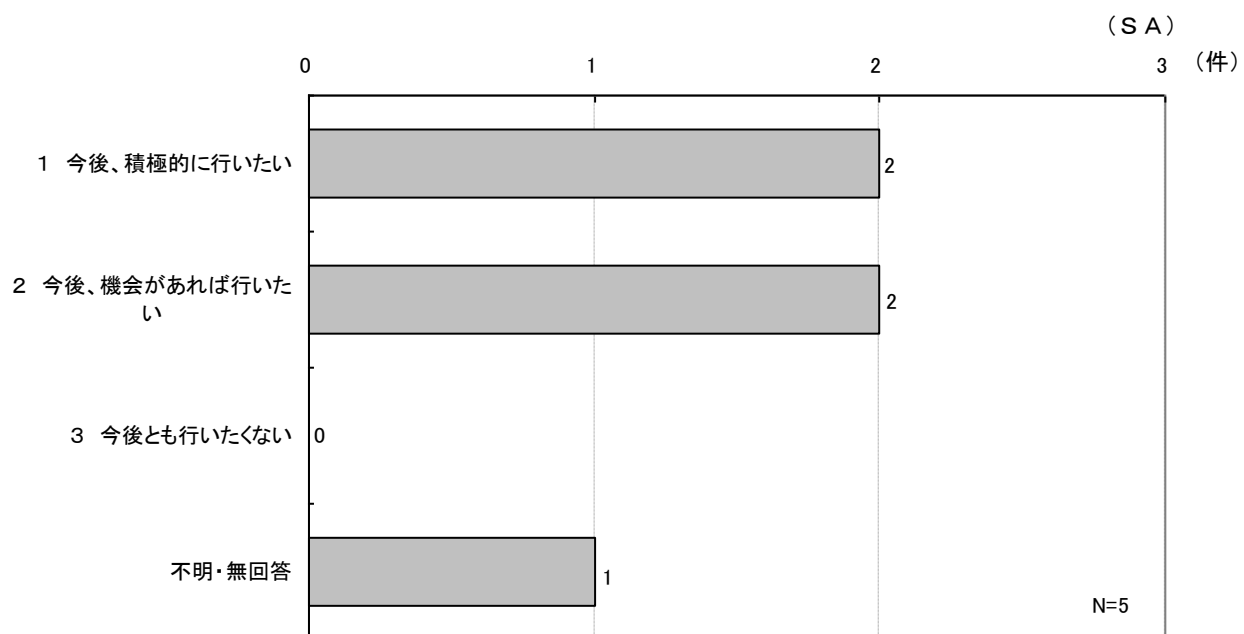
■連携内容

「共同イベント等」が63.2%と最も大きくなっており、次いで「情報交換」が57.9%、「講師派遣・依頼」が31.6%となっている。



■連携意向

「今後、積極的に行いたい」「今後、機会があれば行いたい」が2件ずつとなっている。



問4 貴団体では、会員や会員以外の人たちに情報発信を行っていますか。あてはまるものをそれぞれ1つ選び、番号に○印をつけてください。また具体的方法について記入してください。

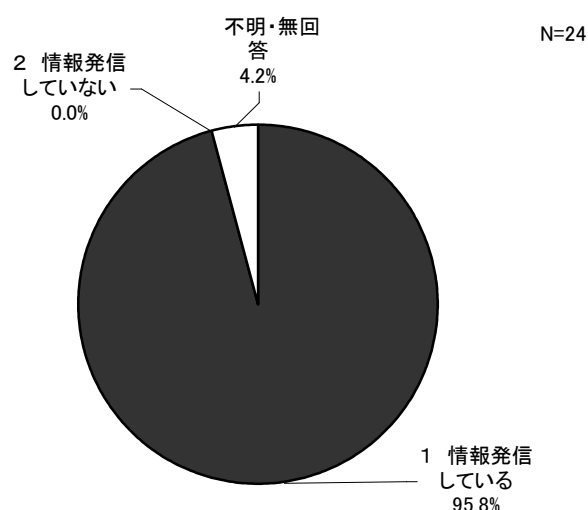
会員向については、「情報発信している」が95.8%となっており、ほとんどの団体が情報発信を行っている。

媒体としては、会報誌やニュース等が最も多く、定例会議、メール、HPが続いている。

会員以外向は、「情報発信している」が75.0%となっている一方、「情報発信していない」が12.5%となっている。

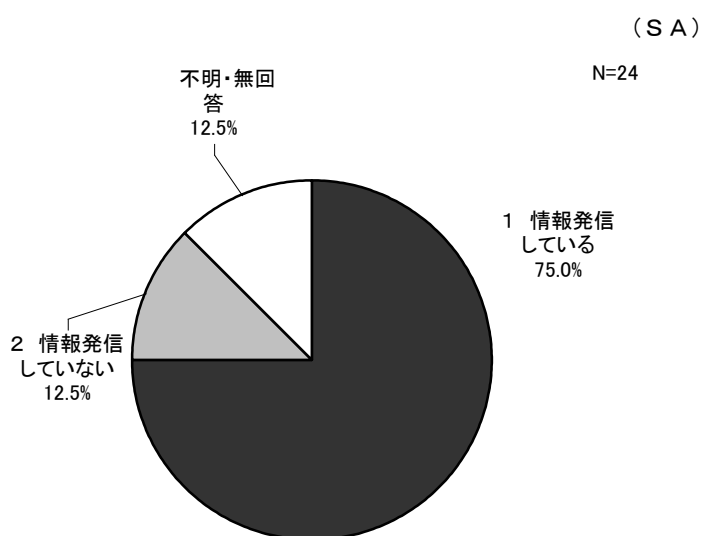
媒体としては、会報誌やニュースに加え、イベント時の情報発信が多くなっているのが目立つ。

■会員向



【会報誌・ニュース等 11件】
 【定例会議等 6件】
 【メール 4件】
 【HP 4件】
 【その他 4件】
 ・作業日に於ける朝礼
 ・チラシ
 ・各イベントの案内送付
 ・その他

■会員以外向



【会報誌・ニュース等 10件】
 【イベント 10件】
 【HP 5件】
 【チラシ 2件】
 【定例会議等 2件】
 【その他 4件】
 ・メール
 ・新聞
 ・ポスター
 ・その他

問5 貴団体では、今後どのような活動を行っていきたいとお考えですか。具体的な内容をご記入ください。

「森林・竹林整備や保全、生態系保全」に関する活動が7件、「子どもたちを対象にした活動」についても6件となっている。

一方で、これ以上、新たな活動が厳しいとの理由から、「現状継続」を望む意見も4件出されている。

その他には、横の連携、行政との連携等、「連携」を意識した活動について言及した意見が4件、「ホタル」に関連する活動、廃油回収など、「まちなかでの環境活動」、「市民ニーズへの対応、地域密着型の活動」が、それぞれ3件となっている。

【森林・竹林整備や保全、生態系保全 7件】

- ・多様な主体が参画し、それぞれの特性を活かしながら継続的な森林整備を進めていきたい。いずれは、森林整備から材の搬出までを長岡京市内で行う「産地地消を考えた森林づくり」ができるように西山独自の循環システムの確立を目指す。
- ・人工林:利用間伐を推進し、市内産材として公共施設等に利用。
- ・広葉樹:伐採木をチップ、薪等に利用 →この活動により、西山材の循環システムを確立できるとともに、CO₂削減に寄与できる等、大きい効果が期待できる。
- ・昔の農業や薪炭林の時代を求めることはできない。特定の場所（ため池、冬水田んぼ、カブトムシの雑木林など）を定めて手入れを続け、生き物の環境を守ることは現代の重要課題である。それは地元、ボランティア、行政、企業などが知恵を出し合い、協働すれば可能である。
- ・高齢化して行く竹林農家との連携をして放置竹林を減少させたい。（世代交替のときの支援等）
- ・放置竹林を整備して美しい町作りをするために竹林に興味を持ってもらえる活動。
- ・従来と同じ、山と川の自然保全活動と桂川のクリーン大作戦。

【子どもを対象にした活動 6件】

- ・子供達に興味を持ってもらうため、カブトムシを増やして子供達に関心を持ってもらう。
- ・自治会活動を通じ、子供達の安全、安心の環境作りを推進して行きたい。
- ・これまでの活動を継続しつつ幼児から小学生の親世代を対象に、自然観察やネイチャーアート等を通し自然に親しむ機会をつくっていきたいと考えています。次世代の担い手の育成と共に、思いや知識を次の世代にうけ渡す為の繋ぎ的活動ができればと思っています。
- ・小学生の里山体験等の応援を実施しているが、工作教室の定期的な開催を増やす等市民の啓発活動にも力点をおいて、後継者作りの活動にも今以上の時間を割いていきたい。
- ・親子観察会に力を入れたい。
- ・若い親が「子どもを自然にふれさせたい」という思いが強まっており、応募が多い。

【連携 4件】

- ・協働、連携、市民参画により、“環境の都”長岡京の実現に向けた環境保全活動を具現化していく。
- ・「問8」で述べているように独自で実践した方が効果的な事業と他団体・企業、行政と一緒に取り組んだ方が効果的かつ地域力アップにつながるものがあります。
- ・各自治会が環境事業に取り組んでいるところであるが、今後も継続的・発展的に取り組めるよう情報の提供、行政との協力関係の保持などに努めたい。
- ・特に具体的な内容まで検討していないが、行政や関係機関・団体等との連携を深め、可能な限り環境活動に参加したいと考えている。

【現状継続 3件】

- ・正直なところ、現在の活動を継続することで目一杯である。伐採した竹の活用の道をさぐることは常々腐心し

ている。

- ・校区の各団体が各団体の趣旨や目的に従って、活発に活動することが重要である。その上に立って、本会としては今後、何をどう取り組むかが課題であるが、本会の趣旨から活動をふやすことは大変困難である。校区全体として、環境に関する活動をするには、現状では環境まちづくり部が活発に活動することであるが、担い手不足でこれ以上の活動は厳しい。
- ・今迄通り。

【ホタル 3件】

- ・今年より新しい活動として「学校ピオトープでホタルを育てる」を目的として、小学校のピオトープでEM活性液を投入して水の浄化をしている。カワニナも多く育て準備はできたので、来年はホタルの幼虫を入れ6月には子供達の夢であるホタルが飛び姿を見せてあげたい。小泉川のホタルが絶滅の危機にある中で、もしこの事業が成功すれば、すべての小学校に広げて行く予定です。
- ・ホタルのふる里づくりのための活動として、ホタルの増殖、保護事業を行っていく。
- ・小畑川という地域の資源を活用した活動や環境問題に取り組めればと思っている。例えば、小畑川の水辺で安心安全に遊べる河川づくり、蛍がとび交う小畑川に！学校にピオトープを！等々。

【まちなかでの環境活動 3件】

- ・廃油回収、廃油石ケン作り、エコローソク作り、マイバック運動、エコライフ、省エネ診断、食育フードマイレージ、子育て支援、介護、エコパーク、地産地消、アイドリングストップ運動、防犯、虐待防止運動、その他。
- ・ゴミの減量化、節電対策など東日本大震災で発生したエネルギー問題について学習し、家庭でできることから実践につなげる為の活動。
- ・レジ袋削減等、廃棄物の減量と適正排出指導。

【市民ニーズへの対応、地域密着型の活動 3件】

- ・市民の要望に応えられる様な活動、例えば放竹林の整備、但し経済的、交通手段等課題ある。またボランティア活動での限界もある。手当支給も必要になると思われる。
- ・地域生活に密着するような活動。
- ・地域に定着した活動であるので、今後も継続して実施していきたい。

【PR 2件】

- ・環境の分野に関して言えば、今後も市内全域をカバーしている団体として、ネットワークを使って、環境関連事業のPR等に協力したい。
- ・地域内の道路に分別ゴミ収集ステーションがあり、他の地域からの不法投棄（大型ゴミ等）が相当出ている現状から、全市的に啓発を強化していく。

【その他】

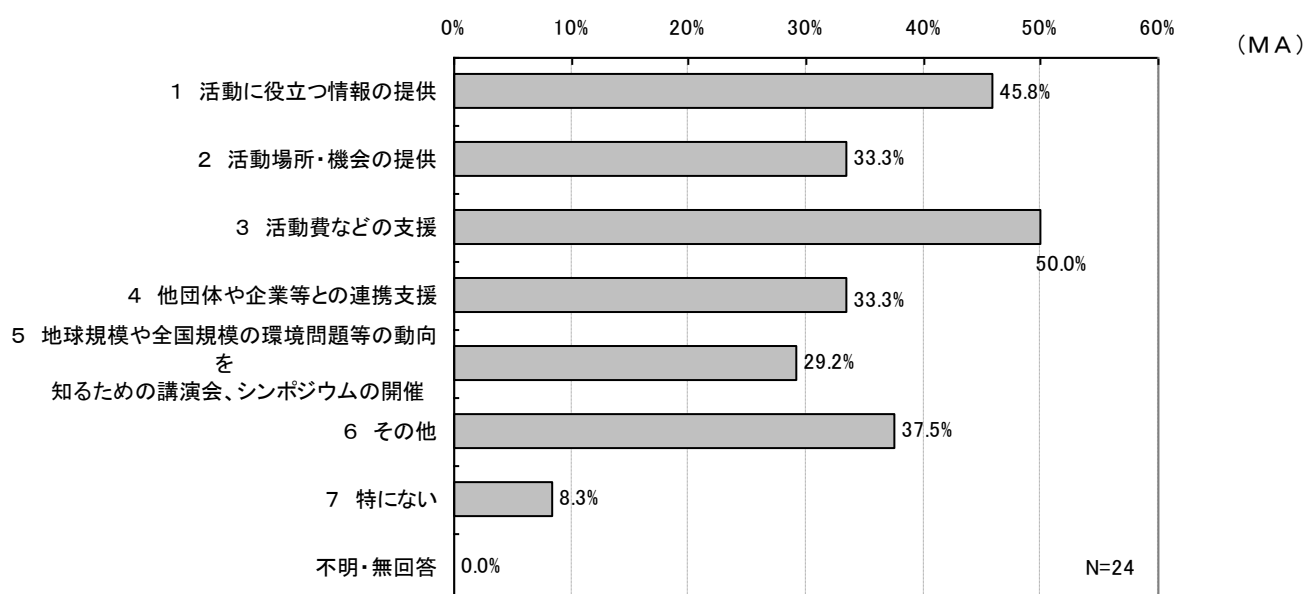
- ・西山田、大山崎（小倉神社周辺）開発区域等、開発問題の協議事項に安心安全な住環境の検討・協議をする。
- ・新駅・にそと周辺土地利用計画の検討、高架下利用計画の検討、にそと沿線環境整備。
- ・小泉川に芝桜を植えて景観を造る
- ・市内の井戸水や湧き水の調査・記録 エコや防災の視点などからの地下水活用について学ぶ。地下水の文化や良さを伝えていく一助になる。府営水道のあり方の改革。
- ・小畑川の環境美化活動について、京都市西京区、長岡京市の自治組織に啓発し、参加を促していく。
- ・環境教育の実施。
- ・桂川の景観を守るための保全条例化活動の推進。

問6 貴団体が活動を行っていく上で、行政に何を求めますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○印をつけてください。また、それぞれの具体的な内容についてもご記入ください。

「活動費などの支援」が50.0%と最も大きく、次いで「活動に役立つ情報の提供」が45.8%、「その他」が37.5%となっている。

「活動費等の支援」については、様々な補助金、助成を望む意見が多く見られた。

「活動に役立つ情報の提供」では、行政施策に関する情報や横の連携につながる情報等についての意見がみられた。



1. 活動に役立つ情報の提供

【学習につながる情報提供】

- ・うちエコ診断のモデル事業等で行った様な会員の学習機会につながる情報の提供は頂ければと思う。
- ・環境問題を会員に広く周知を図るため、環境に関する情報を積極的に提供願いたい。
- ・講師の紹介。

【施策・各種制度等】

- ・環境関連の行政計画及び施策の情報提供。
- ・各自治会が取り組む際の各種制度など。(助成金、機具の貸し出しなど)

【横の連携による情報共有】

- ・環境に関する取り組みをしている団体(NPO法人、企業、各種団体、グループ等)の一覧表と活動内容を作成し、市民に情報提供する。
- ・他団体との連携。
- ・乙訓地域全体でのボランティア活動団体の一覧と活動紹介、活動実施日、年間計画表。

【活動内容に関するノウハウ等】

- ・ホタル養成のノウハウ。
- ・森林整備に役立つ情報があれば、整備方法の参考になるのでありがたい。

【その他】

- ・取り組み課題の情報の共有。
- ・竹を引きとってくれるところの紹介。

2. 活動場所・機会の提供

【イベントでの情報提供の機会】

- ・府、市が行うイベントでの出展。
- ・環境フェアなどでの当会の発表の場の提供を今迄の様にお願いしたい。
- ・年1回の活動紹介、実績、効果の発表会の機会をつくる

【その他】

- ・行政として、環境整備のために必要な作業を立案し、参加市民団体を募集。
- ・見学、施設等の場所の紹介。
- ・活動目標、目的によって他団体・企業との提供やアドバイス。
- ・行政が第三者として入って欲しい。
- ・放置になりかけている竹林を紹介していただき、ある期間管理出来ないか。
- ・特定地区だけの活動であるが、ある程度整備が出来た段階で次の活動場所を提供していただきたい。

3. 活動費などの支援

【各種補助・助成金】

- ・継続的な活動を進めるため、継続的な支援が必要。
- ・補助金、助成金の交付。
- ・各自治会が取り組む際の各種制度など。(助成金、機具の貸し出しなど)
- ・「水中の生き物調査」「野鳥観察」「グリーンカーテン」等々環境問題を焦点化して、取り組みたい団体・グループに補助金を出す。例えば「水中の生き物調査」に対して講師料、資料代案内チラシ等で1万円補助する。
- ・事業活動等に応じて支援いただけたらうれしいです。(ほとんどボランティアに近い働き)
- ・ゴーヤーのグリーンカーテンづくりの苗を買うので活性化事業では厳しくなっており、支援頂ければ有難い。
- ・現在水資源対策基金・・・助成を受けて活動しているが、森林野外活動全般(キャンプや野遊び、自然観察ネイチャーアート等)に助成して欲しい。
- ・現在水資源基金から助成金をいただいているが、ボランティア活動している団体に助成する仕組みを確立して欲しい。
- ・活動補助金の使途についてもう少しゆるやかな内容にしてほしい。

【その他】

- ・行政も共に参画、参加し地域会員と「手・服をよごす」。
- ・回収したゴミの処分。

4. 他団体や企業等との連携支援

- ・長岡京市内でスポンサーになってくれる企業があらばうれしい。
- ・新規企業や団体への働きかけ、交流や意見交換の場の設定。
- ・学校や企業等。
- ・目的や活動に応じて情報の提供やアドバイスを・・・
- ・竹あかりでは生活学校や他団体との連携でろうそくづくりやイベント参加ができてよかったと思う。又これ以外にも活動を広めていきたい。
- ・子ども達の活動が中心な会なので、子ども達が楽しく学ぶ機会や専門家との連携の機会をつくっていきたい。
- ・リサイクル物品買取り業者の紹介など。

5. 地球規模や全国規模の環境問題等の動向を知るための講演会、シンポジウムの開催

- ・参加出来るかに問わず案内は欲しい。
- ・講師・パネラー・コーディネーター等の人材の紹介。
- ・環境問題は奥が深く日々変化していくので、常に新しい情報は必要となる。講演会などの開催は今後も大切になると思う。
- ・市民環境フォーラムの共催。
- ・水循環再生プランは、狭く解釈運用することもできますが、広く解釈すれば無限に広がると思います。ぜひ行政内にとどめず全市民を巻き込んだ事業にしてほしいです。

- ・宮津市の「宮津バイオマス・エネルギー製造事業所」の構想と現状についての講演。

6. その他

- ・要員の確保。
- ・募集情報の発信。
- ・事務局としての活動支援の継続。
- ・気づき合いの情報交換（パイプ役）。
- ・京都府（乙訓土木事務所）、長岡京市の関係部署の積極的な啓発、指導を望む。
- ・京都府には、自然環境保全課があるが、絶滅危惧の25種に限定した保全である。25種以外にも危機に瀕している野生生物は多く、2008年制定の生物多様性基本法が地方公共団体にも努力を求めていることから、情報集め、生態調査、保護対策提案は急務である。市町村ではさらにむずかしいが、長岡京市が、ボランティア、企業などと協働して「生物多様性センター」を作れないだろうか。
- ・市の施設の浴場を竹を燃料にできるボイラにする。宮津市が実践しているバイオマス発電所にならい、竹を燃料として発電所を建設する。
- ・ボランティアグループは活動費がほとんどなく、物的支援が欲しい（たとえば、竹の運搬用にトラックを備用出来ないか、竹林作業用としてコンボ（粉さい機）等の機械の貸し出しは出来ないものか。
- ・近隣の高槻、吹田市や滋賀県の高島市などの環境政策を勉強すればいろいろ参考になるので意見交換してほしい。

問7 長岡京市では、西山を活かした環境活動など、地域の資源や人材を活かした環境学習活動の推進を図っていかうと検討しておりますが、貴団体では、今後、どのような関わりができると思われますか。また、活動資源として提供できるものはありますか。具体的な内容をご記入ください。

「モノづくり、販売、料理等のノウハウの提供」が6件と多くっており、「情報提供・啓発」、「環境活動への参加」が4件となっている。

（モノづくり、販売、料理等のノウハウの提供 6件）

- ・ 竹炭・竹酢液の生産、販売利用の普及活動。
- ・ 竹パウダー製造・販売、・ 食用廃油を利用した石ケン製造・販売。
- ・ 廃油でエコローソク作りと指導。
- ・ 土でカマドを作って、竹や木の薪で調理をする事を実践。
- ・ 今は特に考えてはいないが、筍の料理を伝えることなどならできるかもしれないと思う。
- ・ EM菌を使って水の浄化、EMボカシの作り方、指導。

（情報提供・啓発 4件）

- ・ 環境活動について現在は情報が少なくどのように関わりができるか不明である。今後は、情報提供を通じて参加等について検討したい。
- ・ 市内全域をカバーしている（一部未組織地域を除く）ので、環境の分野でも多くの人材を抱えていると考えられる。また、環境への取り組みというのは、多くの人、一人一人の日々の心掛けが重要なことも多々あるので、市内全域をカバーしている団体を通して啓発すれば、効率的に多くの人に呼びかけることができる。
- ・ 西山の自然をいかに守っていくか、住民への啓発活動。
- ・ 西山の自然をいかに守っていくか、西山へ散策する通行者への啓発看板の設置等が考えられる。

（環境活動への参加 4件）

- ・ 環境活動に対して参加する。
- ・ 現在参画している活動について、今後も継続していきたい。特に森林等の環境整備活動には参加させていただきたい。
- ・ 里山再生プロジェクトとして里山再生、森林整備活動を行っている。又、竹林再生や、河川の生物調査等西山を含めた地域の環境保全活動についても、当会々員は人的な資源となっている。
- ・ 森林整備活動に参画し、情報交換を行っている。

（人材育成、環境学習等 3件）

- ・ 学習活動への人材育成と参加。
- ・ 子ども達の健全育成を願い活動している当団体では、森林野外活動担当スタッフも環境に関する専門知識を持っている訳ではありません。一方、この地域には、専門知識をもったすばらしい先人達がたくさんおられます。当団体では子ども達が自分たちの住むこの地域の自然を愛し、大切に思い守っていかうと思えるよう育つためにも、そういう方々から学んでいく機会を積極的につくっていくよう、努力したいと考えています。
- ・ 環境学習や活動に対して講師を依頼する（リストがあれば嬉しい）・ ・

（体験活動の受け入れ 2件）

- ・ 条件が整えば子供や生徒（中学生、小学生）の体験受け入れ。現在、西山をフィールドとした小学生の親子対象の体験型環境教育事業や、小学校の環境学習プログラムの支援などを行っており、今後もそれらを充実していきたいと考えている。
- ・ 企業を定年になる人のボランティア活動の体験活動の受け入れをして、気に入ったら入会してもらおうと、お互いにメリットがあると思います。

（その他）

- ・ 竹の提供。

- ・生ゴミ処理への利用の実践、普及活動。
- ・「木育」として国産材利用として「木づかい運動の推進を・・・ 木材で遊べるオモチャ（例えば積木）を使って→子育て支援・介護支援。
- ・「井戸マップ」でも作ればいいのですが、ほど遠いです・・・。
- ・小泉川水辺の環境づくり・「にそと」完成後の景観形成について、地区内の高架下利用、公園整備、側道など地域住民の生活環境について。
- ・イベントごとに「緑の募金」運動。
- ・活動の募集案内チラシを紹介する。
- ・活動する際の山林所有者との調整。
- ・森林整備等における技術指導。
- ・「カートカン」を使用した製品を使う普及運動（紙製飲料器 etc）。
- ・毎年5月22日は国際生物多様性の日なので市民に呼びかけ”植樹”運動をしてみてもは。
- ・木材→肥料・香り作り・その他の推進。
- ・森林整備作業が主体の団体です。作業のない環境学習活動には関わる事はできない。
- ・具体的な参加活動についての検討はしていないが、団体活動の中で、参加が可能であれば積極的に参画していきたい。

問8 貴団体が環境活動を行っているなかで、日頃お感じになっていることがございましたら、ご意見・ご提案など、自由にご記入ください。

【行政の取組等について】

- ・このアンケートを機会に各団体、地権者、行政が一体となってどうしたら西山の保全ができるか真剣に考えるべきだと思います。
- ・現在個人の所有竹林を借りて（御理解戴いて）活動している。冬季に入れるわら等の確保もなかなか困難である。市行政の協力を戴ければ前進することも多い。
- ・今迄、市役所森林担当の方に意見、提案を言った事がありますが、私達グループの森林整備の考え方と市役所森林整備担当者の考え方に大きな違いがある様に思う。
- ・西山キャンプ場に入る登山道の橋等が朽ちて危険な場所がよくある。市民の方がよく来られるので、見かねて応急修理をしていますが、市として早く対応するようにしていただきたい。
- ・行政には、住民の種々の要望などが上がっていると思いますが、住民サービスを充実させる上で、市民団体を活用することをはかられたらよいのにと常々思います。
- ・ボランティア同士では市町村の垣根なく交流しているが、役所同士の交流がないので、政策がマチマチではないか。市町村同士の役所の連携が必要ではないか。

【子どもたちを対象にした取組について】

- ・昨年度はゴーヤーのグリーンカーテンの温度測定を福知山の企業にお願いして小学校2校で環境学習会を実施した。地元の小学校でも毎年定着して立派なカーテンづくりもされ、地道な啓発活動を継続し、子どもたちにも環境について考える機会を持って貰う事が大切だと思う。牛乳パックで作ったりサイクルおもちゃづくりやゲームを通して昔ながらの遊びの楽しさも伝えていきたい。環境というテーマで地域の子どもたちを見守り育てる活動ができればいいと思う。
- ・昨年から小学校の春の遠足に「自然観察」も指導で協力してきました。自然観察の指導で最も大切なことは、子どもがのびのびと自然に触れることのできる場所に案内することです。そこでは「本物はおもしろい」「友達が摂ったカエルを触ることができた」など「自然が先生」です。子どもは自発的に学びます。指導者の役割はあれこれ知識を教え込むことではありません。終了時に15人単位で「見たもの（採ったもの）発表」します。A君の虫の羽は指導者が「おもしろいもの拾ったね」と皆に紹介すればA君は皆に認められます。専門外のことは「〇〇ムシの仲間だね」「後で調べよう」など、名前にこだわるのではなく、皆で観察したものを共有する場を司会します。当会はその学校からの距離に応じて「観察場所」を案内し、指導者を派遣します。
(追記) 子どもたちが自然に触れる場所が少ないのが実態です。そこで市として次の提案を検討して欲しいです。
- ・「カブトムシ森」を作る。雑木林間伐採の一部を、また侵入竹林を元の雑木林に戻して「カブトムシ森」にする。
- ・西代公園に「学校の田んぼ」を作り、春はレンゲ畑とする（昨年までは水田のためにレンゲを育成していた）

【自然環境の保全】

- ・ホタルのエサとなるカワニナが捕獲できる場所が、ここ数年でも減少しており、地域においても生態系の変化を実感している。
- ・自然環境がどんどん宅地開発され、自然災害が予想以上に発生している中で地域の宅地開発が災害を誘発しないか、心配でありその様な事が少しでも避けられる取組む組織も必要で多く行政が関わる必要もあると考える。

【組織運営について】

- ・会員の入れ替わりや時間の経過等により、意思統一が難しいものとなっている。
- ・ボランティア活動の中で強制とか命令するとかすることがむずかしい。出来るだけ自ら楽しく仕事が出来場作りに苦労しています。参加する人の目的意識がいろいろなのでそのコントロールで苦労しています。

【その他】

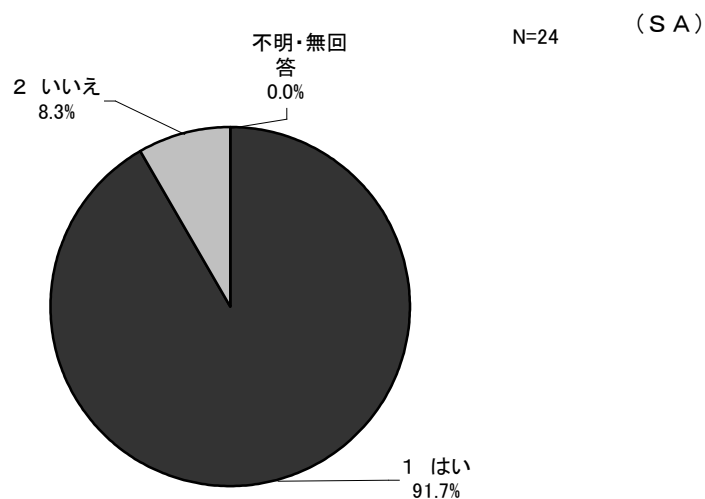
- ・直接西山には関わっていないが、個人として別の団体で放置竹林の整備に関わってきた。7年間ずいぶん汗をかいてきた。しかし達成感はないしどれだけ西山の環境保全に貢献できたかは疑問を感じている。
- ・各自治会で取り組んでいるリサイクル活動は、環境事業であると同時に、自治会の財源確保のための事業とい

う側面も強いようです。(アルミ缶の売却など)によって、一部の自治会からは、自治会に収益が入るような環境事業を取り組み易いようにしてほしいという声を耳にしています。

- ・小畑川クリーン作戦で阪急ガード下のゴミを撤去した後、ゴミの放置がないので、美しくすることは大切である。しかし、ゴミをしない取組や運動することが重要である。
- ・長七小前の府道(22m 道路)の歩道には、ビン・カン・ペットボトル・犬のフン等放置されている。何かいい方法はないものかと思っている。
- ・公園等の落ち葉は業務用のビニール袋に入れて処分されているが、腐葉土化して活用することはむずかしいのでしょうか。
- ・今まで独自に取り組んで来た課題(事業)例えばマイバック運動廃油回収石ケン作り等環境に関する取り組み etc も、それはそれでよいがもっと広域に広げ他団体企業行政と一体になって発信し取り組んだ方が効果的なものもあるので、場所の供給、資金援助等があれば、人材的に一つの団体が無理なく支援が出来るのではないかと
- ・場所の提供は空き店舗・教室等の活用
- ・具体的に活動事業として 子育て支援・介護・エコパーク・食育・服育・木育・ふれあいトーク等の活動
- ・いろんなパターンが考えられるので、その組み合わせ活動の内容により行政がアドバイスいただくと、地域力強化につながるのでは。
- ・当団体地域の西側を流れる小畑川は、京都市、長岡京市、向日市、大山崎町にまたがる15kmに及ぶので、その流域に接する自治組織が協働して環境美化に取り組むべきである。点から線へと拡充を図るため、各行政と関係流域の団体で話し合いの場を持ち、全ての流域の環境美化活動を行うことが必要である。
- ・地域の大学生などの若いボランティアスタッフを募れないか、企業からの支援を受けられないか、広報の効果的な方法は・・・等
- ・特に感じることはないが、資源の有効活用を念頭においた、ゴミの分別を徹底している。
- ・環境省全国水生生物調査。市環境政策推進課を通じて当会が応募し、今年から毎年小泉川金ヶ原橋上流で調査をおこなうことになった。他府県では地元の小中学校、高校などがやっているの、当会としても参加を呼びかけていきたい。

問9 長岡京市では、市内で活動されている団体の活動状況や活動支援の要望を、より詳細に把握するため、市内で活動される団体を対象とした「ヒアリング調査」を実施しようと考えております。貴団体へも、ヒアリング実施のご相談をさせていただく可能性がございますが、ご連絡をとらせていただいてもよろしいでしょうか。

「はい」が91.7%と9割以上の団体から、ヒアリングへの協力意向が示されている。



3 調査票

長岡京市の環境づくりのための団体アンケート調査 ご協力をお願い

平成23年12月
長岡京市長 小田 豊

初冬の候 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴団体の皆様には、日頃から環境行政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、長岡京市では、平成13年3月に「長岡京市環境基本計画」を策定し、環境行政を総合的・計画的に進めてまいりました。また平成21年4月には“環境の都”長岡京市環境都市宣言を行い、未来の子どもたちが心の安らぎと豊かさを得られる“環境の都”長岡京の実現に向け、取組みを進めているところです。

一方、昨今の地球温暖化問題など、地球環境を取り巻く状況に大きな変化がみられ、自然と共生する持続可能な社会づくりを進めていくことが急務となっています。

そこで、このたび「長岡京市環境基本計画」の見直しを行い、長岡京市の新たな環境施策について検討することになりました。

このアンケート調査は、環境に関する活動を進めておられる団体の皆様から、環境に関する日頃の活動状況やご意見等をお聞かせいただき、よりよい計画づくりの基礎的な資料として活用させていただくことを目的に実施するものです。

ご多忙の折とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

■調査票へのご記入にあたって

- ・ご回答は、団体の代表の方やその代理の方をお願いいたします。
- ・調査結果は、統計処理した上で市の環境行政推進の目的のみに使用するもので、特定の団体名が公表されることはございません。
- ・ご記入後は、同封の返信用封筒に調査票を入れ、**平成23年12月16日(金)までに郵便ポストに投函してください。**(切手は予め返信用封筒に貼り付けています)

ご不明な点などがございましたら、下記までお問い合わせください。

長岡京市環境経済部 環境政策監 計画調整担当： 田邊^{たなべ}
電話：075-955-9564 FAX：075-951-5410
e-mail：kankyousei.sakukan@city.nagaokakyo.kyoto.jp

長岡京市の環境づくりのための団体アンケート 調査票

貴団体についておたずねします

問1 貴団体名、所属人数、活動概要等についておたずねします。具体的内容をご記入ください。
活動分野、活動形態等については、あてはまるものすべてに○印をつけてください。

団体名		
活動分野	1. 森林（竹林）保全 3. 水環境保全 5. 廃棄物・リサイクル 7. 清掃美化 9. 環境教育・環境学習 11. その他（	2. 生物保全 4. 大気保全 6. 地球温暖化防止 8. 花・植樹・緑化 10. 消費行動改善 ）
活動形態	1. 実践活動 3. 普及・啓発	2. 調査・研究 4. その他（
活動エリア	1. 京都府全域 3. 長岡京市_____地域	2. 長岡京市全域 4. その他（
活動資金	1. 会費 3. 行政補助 5. 事業収益 7. その他（	2. 寄付金 4. 行政委託 6. 民間助成 ）
活動概要		
会員数	人	
設立年	昭和・平成 年	
ご連絡先	貴名：	所属・役職：
	電話：	FAX：
	e-mail：	

貴団体の活動についておたずねします

問2 貴団体では、現在、環境に関する活動を行う上でどのようなことが問題となっていますか。また、今後、活動を継続していく上でどのようなことが問題になると思われますか。具体的な内容をご記入ください。

(現在の活動の上での問題)
(今後、活動を継続していく上での問題)

問3 貴団体では、他の活動団体等(民間団体、企業等)と連携した活動を行っていますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○印をつけてください。

1. 頻繁に行っている 2. 時々行っている 3. 以前行っていたが、今は行っていない 4. 行っていない 5. その他(	連携内容(あてはまるもの全てに○) 1. 情報交換 2. 共同イベント等 3. 施設・設備等の貸与・借用 4. 講師派遣・依頼 5. 共同調査・共同研究 6. 助言・相談 7. その他(
	連携の意向(あてはまるもの1つに○) 1. 今後、積極的に行いたい 2. 今後、機会があれば行いたい 3. 今後とも行いたくない

問4 貴団体では、会員や会員以外の人たちに情報発信を行っていますか。あてはまるものをそれぞれ1つ選び、番号に○印をつけてください。また具体的方法について記入してください。

会員向け 1. 情報発信している 2. 情報発信していない	具体的方法 →
会員以外の人向け 1. 情報発信している 2. 情報発信していない	具体的方法 →

問5 貴団体では、今後どのような活動を行っていきたいとお考えですか。具体的な内容をご記入ください。

問6 貴団体が活動を行っていく上で、行政に何を求めますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○印をつけてください。また、それぞれの具体的な内容についてもご記入ください。

あてはまるものをすべて○	具体的内容を記入
1. 活動に役立つ情報の提供	
2. 活動場所・機会の提供	
3. 活動費などの支援	
4. 他団体や企業等との連携支援	
5. 地球規模や全国規模の環境問題等の動向を知るための講演会、シンポジウムの開催	
6. その他	
7. 特にない	

問7

長岡京市では、西山を活かした環境活動など、地域の資源や人材を活かした環境学習活動の推進を図っていかうと検討しておりますが、貴団体では、今後、どのような関わりができると思われますか。また、活動資源として提供できるものはありますか。具体的な内容をご記入ください。

問8

貴団体が環境活動を行っているなかで、日頃お感じになっていることがございましたら、ご意見・ご提案など、自由にご記入ください。

問9

長岡京市では、市内で活動されている団体の活動状況や活動支援の要望を、より詳細に把握するため、市内で活動される団体を対象とした「ヒアリング調査」を実施しようと考えております。貴団体へも、ヒアリング実施のご相談をさせていただく可能性がございますが、ご連絡をとらせていただいてもよろしいでしょうか。（※詳細は改めてご相談させていただこうと考えています）

1. はい
2. いいえ

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒にて、12月16日（金）までにご返送ください。